

東海北陸厚生局長 殿

学校法人 金沢医科大学
理事長 竹 越

金沢医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成22年度の業務に関して報告します。

記

- 1. 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2. 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3. 高度の医療に関する研修の実績 研修医の人数 47人 (注)前年度の研修医の実績を記入すること
- 4. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 6. 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 7. 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	310人	45.0人	324.3人	看護補助者	120.0人	診療エックス線技師	0.0人
歯科医師	9人	0.0人	9.0人	理学療法士	22.0人	臨床検査技師	61.0人
薬剤師	45人	0.0人	45.0人	作業療法士	6.0人	衛生検査技師	0.0人
保健師	3人	0.0人	3.0人	視能訓練士	9.0人	その他	0.0人
助産師	14人	1.0人	14.8人	義肢装具士	0.0人	あん摩マッサージ指圧師	0.0人
看護師	583人	41.0人	613.6人	臨床工学士	11.0人	医療社会事業従事者	7.0人
准看護師	2人	2.0人	2.9人	栄養士	7.0人	その他の技術員	23.0人
歯科衛生士	6人	1.0人	6.9人	歯科技工士	3.0人	事務職員	73.0人
管理栄養士	15人	0.0人	15.0人	診療放射線技師	33.0人	その他の職員	55.0人

- (注) 1. 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2. 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3. 「合計」の欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下第2位を切り捨て、小数点以下第1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計数を記入すること。

8. 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たりの平均入院患者数	652.1人	3.0人	655.1人
1日当たりの平均外来患者数	872.7人	40.7人	913.4人
1日当たりの平均調剤数			685.8剤

- (注) 1. 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2. 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3. 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4. 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ロータブレーター	取扱患者数	61人
当該医療技術の概要(循環器内科) 石灰化病変を有する狭心症や心筋梗塞の患者に対して、従来のPTCAでは治療成績が良好でない。ロータブレーターは石灰化病変やびまん性病変、硬い病変に対する治療に有効である。現在、ロータブレーターとステントを併用し、石灰化病変や複雑病変を有する患者に対しても治療成績が良好である。			
医療技術名	光干渉断層撮影(OCT)	取扱患者数	31人
当該医療技術の概要(循環器内科) 冠動脈内にイメージワイヤー(近赤外線)を挿入し、オクルージョンバルーンカテーテルを用いて血流を遮断することで、血管内超音波の約10倍の解像度の画像を得ることができる。血管内超音波では評価困難な線維性被膜が菲薄化した不安定プラークの識別や、高い画像解像度を利用して薬剤溶出性ステント治療後の微小新生内膜の評価ができる。			
医療技術名	心房細動に対するカテーテルアブレーション	取扱患者数	26人
当該医療技術の概要(循環器内科) 心房細動は肺静脈を中心とする巣状興奮による発生要因と拡大・変性した左房筋を中心とする器質による維持の要因がある。本症例に対して高周波を用いたカテーテルによる肺静脈離断術、complex fractionated atrial electrogram (CFAE)を指標とする左右心房焼灼術、線状焼灼法などを病状に応じて組み合わせることで、治療成績は良好である。			
医療技術名	心臓再同期療法(CRT)	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要(循環器内科) 慢性心不全が重症化する機序として、伝導傷害に伴う心室同期不全が様々な血行動態の悪化を招き、心筋にダメージを与え、その結果さらに伝導傷害を助長させるという悪循環の存在がある。この悪循環を断ち切る治療法がCRTである。通常のペースメーカーと同様にリードを右室心尖部に留置し、それに加えて左室側壁にもリードを留置することで、両方から左室を挟み込むようにペーシングし、収縮タイミングの時相のズレを解消させる。			
医療技術名	ループレコーダー	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(循環器内科) 原因不明の失神を繰り返す患者で、特に心原性失神が強く疑われ、Holter心電図や電気生理学的検査においても確定診断に至らない場合に、原因究明を目的として、皮下に植え込み、皮下心電図を記録・保存することができる心電計である。R波を検出してR-R間隔で心停止、徐脈、心室頻拍などの不整脈を自動検出あるいは患者起動にて記録することができ、3年間連続で記録することができる。			
医療技術名	腎生検組織モノクローナル抗体染色	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要(腎臓内科) 従来、腎生検組織の検査は、光顕、電顕に加えて蛍光抗体による免疫グロブリン補体の染色のみが保険適用されてきたが、糸球体構成成分及び病態関連分子に対するモノクローナル抗体の検索によって、より高度の診断が可能である(C4d, C3d, HLA-DR, CoL4 α 5/ α 2, HLA-G1, CD45, CoL1)			
医療技術名	腎移植免疫モニタリング	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要(腎臓内科) 高感度酵素抗体法を用いて腎移植時の血清マーカー(HLA-G5, アディポサイトカイン)による免疫抑制状態の評価を行う。			
医療技術名	遺伝子解析による遺伝性内分泌疾患の診断	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要(内分泌・代謝科) 多発性内分泌腫瘍(MEN) I型、多発性内分泌腫瘍(MEN) II型、若年発症成人型糖尿病(MODY) 3につき、患者末梢血白血球からのゲノムDNAまたは摘出組織からのcDNAを用い、PCR産物のシーケンスにより遺伝子診断を行っている。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	髄液細胞のフローサイトメトリーを用いた炎症性疾患の診断と治療	取扱患者数	180人
当該医療技術の概要(神経内科) 中枢神経内の炎症や免疫の状態は、通常髄液のルーチン検査として細胞数や蛋白、IgGの値から推定して病態を評価せざるを得ないのが現状である。しかし、髄液採取に際して一部の検体を低温下、低速遠心をかけて髄液細胞を回収し、その細胞の表面および内部の抗原をCD4、CD8、CD25、CD29、CD56、CCR3、CCR4、CCR5、CXCR3、Foxp3等に対するモノクローナル抗体で染色することにより、どのような役割を担った白血球が髄液内で増加あるいは減少しているかを採取同日に知ることができる。この方法により、中枢神経内で起こっている炎症性病態を的確に把握し、正しい診断と治療選択肢に至ることを可能にしている。			
医療技術名	蛍光薬剤を用いた悪性脳腫瘍摘出術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(脳神経外科) 悪性脳腫瘍は脳内に浸潤することが多く、手術の際に正常な脳と見分けがつかない事がある。そこで蛍光薬剤を手術前に内服してもらい、手術時に腫瘍のみが発光することで正常脳との識別が可能となる。これまで、この方法により安全かつ確実な腫瘍摘出を行い、良好な結果が得られている。			
医療技術名	ナビゲーションを用いた神経内視鏡による脳実質内腫瘍の生検術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要(脳神経外科) 脳腫瘍が脳の深部に発生した症例などにおいて、ナビゲーションシステムを用いて確実に腫瘍まで到達し、内視鏡観察下で生検術を行っている。生検時に懸念される出血も内視鏡により、観察し、必要時には止血することも可能である。この方法により脳の深部の腫瘍において侵襲が少なく安全で確実な診断を行っている。			
医療技術名	早期胃癌に対する、ICG蛍光法センチネルリンパ節誘導機能温存根治手術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要(一般・消化器外科) ESD適応外の早期胃癌にはリンパ節転移の可能性があるため、通常はD1以上のリンパ節郭清を伴う広範な胃切除術が行われる。しかしセンチネルリンパ節生検で転移陰性と診断されれば、郭清が省略でき、胃切除範囲の縮小が可能となる。早期胃癌手術適応例を対象に、ICG蛍光法を用いてセンチネルリンパ節生検を行い、転移陰性例を峻別して、愁訴や障害の少ない機能温存根治手術を提供している。			
医療技術名	腹腔鏡(補助)下肝臓切除術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要(一般・消化器外科) 肝臓切除の際に腹腔鏡を用いた肝臓の周囲支持組織からの剥離や肝実質切離により、従来の開腹創を大幅に縮小することができる。それによって術直後の創痛の軽減と早期の離床が可能となり、また長期的にも創部のしびれの軽減やイレウスの発生も少なくなり、患者様にとっては極めて有用な手術である。			
医療技術名	ナビゲーションシステムを応用した耳鼻咽喉科、頭頸部手術	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要(耳鼻咽喉科) 手術部位を画像上にリアルタイムに表示するナビゲーションシステムは、今日飛躍的に進歩したコンピュータによる手術誘導支援装置で、より安全で、確実な手術が行なえる。耳鼻咽喉科、頭頸部領域は解剖学的に複雑で、個人差も多く、危険部位が周辺に位置し、依然医療事故は後をたたない。昨年は、耳、鼻、咽喉頭、頭頸部の手術24例に応用し、その有用性と安全性が確認された。			
医療技術名	人工内耳植え込み手術ならびに術後リハビリテーション	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要(耳鼻咽喉科) 昨年は、人工内耳植え込み手術症例はなかったが、過去に埋め込み手術を行った患者のリハビリテーションを7例の患者に対して行い、良好な経過を得ている。			
医療技術名	羊膜移植術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(産科婦人科) 羊膜は抗原性のない組織であり、ヒト眼表面の再構築に使用し有効であったとする報告が1995年にMiami大学のTseng, SC教授らによりなされた。その後、羊膜は様々な消炎性のサイトカインを放出し新生血管の抑制、増殖組織の抑制の効果もあることが判明し、本邦でも一部の施設で使用され始めている。当科においても1999年に大学倫理委員会より許可を得ることが出来たため、産婦人科の協力により羊膜の提供を受け、難治性の外眼部疾患患者に羊膜移植術を開始している。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	新生児代謝異常検査	取扱患者数	300人
<p>当該医療技術の概要(産科婦人科)</p> <p>この検査は新生児に尿をガスクロマトグラフィー質量分析(GC/MS)法により検査することで、22項目の代謝異常症を早期に診断し、もし異常があれば治療を行い、心身障害の発症を予防することが可能である。採尿はろ紙をおむつにはさんでしめらせるだけなので、新生児には負担はかからない。</p>			
医療技術名	卵巣動脈血流解析による排卵予知	取扱患者数	30人
<p>当該医療技術の概要(産科婦人科)</p> <p>体外受精一胚移植を含めたhCGを用いた排卵誘発時に、卵巣動脈の血行動態をカラードップラー法で測定・解析し、hCG投与1～3時間後の卵巣血流量をみて排卵が順調に行われるかどうかを予測する方法である。非侵襲的な方法であり、測定時間も短く、患者にとっての負担はほとんどない。卵巣血流量解析からhCG投与36時間後の順調な排卵が予測できない場合には、高額な費用がかかる体外受精一胚移植をキャンセルするなど、体外受精一胚移植の成績向上および医療経済的に有用な方法である。</p>			
医療技術名	腎、肝移植後ならびに透析患者の妊娠分娩管理	取扱患者数	3人
<p>当該医療技術の概要(産科婦人科)</p> <p>移植後患者や透析患者の性機能の回復は、本人や家族にとり大きな福音である。しかし、妊娠に伴う移植臓器への影響、拒絶反応、精神的負担などの問題がある。国内外で極めて稀な腎移植後の自然排卵による品胎妊娠、死体腎移植および本邦初の肝移植後などの妊娠前から妊娠中、分娩および分娩後と長期間の厳重な管理を行っている。</p>			
医療技術名	黄体化未破裂卵胞に対するG-CSF療法	取扱患者数	5人
<p>当該医療技術の概要(産科婦人科)</p> <p>不妊症の一般的な治療のひとつに、排卵誘発剤のクロミフェン・サイトレートとhCGを使用した排卵を促進させる治療法がある。この治療を行うと卵を持った卵胞は直径18mm以上に発育し、hCGの注射により48時間以内に排卵を認めるのだが、なかには卵胞は発育するが排卵せずに黄体化未破裂卵胞になる症例も少なくない。本治療は排卵誘発の際に黄体化未破裂卵胞を認めた症例に対しG-CSFを投与し、高い確率でに排卵を認めるだけでなく正常排卵例と同程度に妊娠成立を認める有用な治療である。</p>			
医療技術名	子宮頸部上皮内腫瘍・尖圭コンジローマに対するフェノール療法	取扱患者数	50人
<p>当該医療技術の概要(産科婦人科)</p> <p>子宮頸癌はヒトパピローマウイルス(HPV)感染によって誘発されることが明らかになっている。子宮頸癌検診で見つかる異常の多くは上皮内腫瘍(CIN)であるが、発見されても治療法はないため、初期のCINの場合は自然治癒するまで外来通院させるしか方法がない。また、別のタイプのHPV感染が原因の尖圭コンジローマに対する簡単な外来治療法も存在しない。CINや尖圭コンジローマ患者に対する簡単かつ確実な治療法として、我々はフェノール療法を開発し治療をおこなっている。現在のところ、治療効果は100%である。</p>			
医療技術名	習慣性顎関節脱臼に対する局所麻酔下顎関節結節形成術	取扱患者数	2人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>高度の認知症や高齢の有病者などに対し、全身麻酔下における負担を軽減させるため局所麻酔下において習慣性顎関節脱臼の治療法として関節結節(あるいはあわせて下顎頭の一部)を削除する方法である。</p>			
医療技術名	下部直腸進行癌に対する肛門機能温存を目的とした術前化学放射線療法と超低位前方切除術	取扱患者数	6人
<p>当該医療技術の概要(一般・消化器外科)</p> <p>下部直腸進行癌で腫瘍が肛門に近い症例は、そのままでは直腸切断術が必要となり人工肛門を造設しなければならない。そのような症例に対して術前化学療法にて腫瘍を縮小させたのち超低位前方切除術を行うことにより、腫瘍を完全に切除し、かつ肛門機能を温存させ人工肛門造設を回避させることが可能である。</p>			
医療技術名		取扱患者数	人
<p>当該医療技術の概要</p>			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	36人	・膿疱性乾癬	2人
・多発性硬化症	49人	・広範脊柱管狭窄症	1人
・重症筋無力症	37人	・原発性胆汁性肝硬変	26人
・全身性エリテマトーデス	104人	・重症急性膵炎	1人
・スモン	2人	・特発性大腿骨頭壊死症	64人
・再生不良性貧血	12人	・混合性結合組織病	9人
・サルコイドーシス	41人	・原発性免疫不全症候群	1人
・筋萎縮性側索硬化症	19人	・特発性間質性肺炎	4人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	62人	・網膜色素変性症	22人
・特発性血小板減少性紫斑病	29人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	20人	・肺動脈性肺高血圧症	3人
・潰瘍性大腸炎	78人	・神経線維腫症	10人
・大動脈炎症候群	19人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	17人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	7人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	4人
・脊髄小脳変性症	39人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	0人
・クローン病	34人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	11人	・脊髄性筋萎縮症	2人
・パーキンソン病関連疾患	118人	・球脊髄性筋萎縮症	1人
・アミロイドーシス	1人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	4人
・後縦靭帯骨化症	95人	・肥大型心筋症	2人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	11人	・ミトコンドリア病	1人
・ウェゲナー肉芽腫症	1人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	14人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症	35人	・黄色靭帯骨化症	6人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	3人	・間脳下垂体機能障害	74人
(注)「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。		合計	1,134人

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
1	スフィンゴミエリンKOマウスを用いた自己免疫疾患の発症機序の解明と治療法への応用	梅原 久範	血液免疫内科学	15,500 円	文部科学省
2	母胎間シグナルリレーの天脳皮質発生における生理学的意義	八田 稔久	解剖学 I	8,900 円	文部科学省
3	覚醒剤濫用の法医学的診断を目指した薬物依存モデル動物による酸化ストレスの解析	北村 修	法医学	3,600 円	文部科学省
4	四肢の再生メカニズムの解明:なぜ、手は手になり、足は足になるのか?	下川 隆	解剖学 II	1,600 円	文部科学省
5	アナフィラキシーショックにおける心機能の統合的研究	芝本 利重	生理学 II	500 円	文部科学省
6	マウスES細胞由来心筋細胞の分化成熟過程における分岐構造の非線形力学的解析	倉田 康孝	生理学 II	800 円	文部科学省
7	モノヒキニン化53BP1による非同末端結合修復制御機構の解明	岩淵 邦芳	生化学 I	1,000 円	文部科学省
8	神経-血管相互作用による血管ネットワーク形成に関わる遺伝子群の探索と病理機能	米倉 秀人	生化学 II	900 円	文部科学省
9	増殖性網膜炎の新規治療法の開発-miRNAを標的とした血管新生抑制	吉竹 佳の	生化学 II	500 円	文部科学省
10	骨軟部肉腫の転移と抗悪腫剤性に関わるアグロポリン分子種の同定と分子機構の解明	上田 善道	病理学 II	1,200 円	文部科学省
11	C型インフルエンザウイルスの増殖過程における第二の膜蛋白質CM2の役割の解明	村木 靖	微生物学	800 円	文部科学省
12	ピコornaウイルス持続感染を制御するLおよびL*蛋白の協調的細胞死制御機構の解明	大原 義朗	微生物学	1,800 円	文部科学省
13	悪性中皮腫における癌抑制遺伝子異常-ATBFI遺伝子解析を中心に	湊 宏	臨床病理学	1,200 円	文部科学省
14	骨軟部腫瘍におけるATBFI遺伝子解析による悪性度評価の研究	野島 孝之	臨床病理学	600 円	文部科学省
15	日本人健康成人男女における喫煙習慣とその中断(禁煙)が腎機能に及ぼす影響	山田 裕一	衛生学	1,000 円	文部科学省
16	ダイオキシン環境暴露が小児の社会情動発達に及ぼす影響	西条 旨子	公衆衛生学	1,900 円	文部科学省
17	新規心筋虚血マーカーである血清テオキソホ核酸分解酵素 I による不安定狭心症診断	河合 康幸	循環器内科学	100 円	文部科学省
18	腎移植コホートにおける機能分子発現と治療効果に関するプロテオーム解析	横山 仁	腎臓内科学	1,500 円	文部科学省
19	糖尿病腎症に対するミトコンドリア制御に基づいた新規治療法の探索	古家 大祐	糖尿病・内分泌内科学	800 円	文部科学省
20	システム生物学にもとづく白血病幹細胞モデルの構築と予測型治療戦略への基盤創成	犀川 太	小児科学	700 円	文部科学省
21	統合失調症発症に関わる社会性獲得障害と心理社会的治療に関する生物学的研究	川崎 康弘	精神神経科学	1,100 円	文部科学省
22	Y-90標識抗CD20抗体治療におけるリンパ球の放射性組織障害に関する検討	渡邊 直人	放射線医学	700 円	文部科学省
23	DNA損傷部位に集積する蛋白質を用いたストロンチウム治療後放射線組織障害の検討	道合 万里子	放射線医学	1,200 円	文部科学省
24	胃癌再発抑制の新しい戦略-治療手術後潜在再発に対する抗癌剤効果予測-	小坂 健夫	一般・消化器外科学	800 円	文部科学省
25	新しいリンパ節転移診断技術の開発-抗体標識ナノビーズを用いた迅速転移診断	木南 伸一	一般・消化器外科学	1,400 円	文部科学省
26	酸化ストレスの観点からステロイド誘発骨壊死の機序解明と予防法の開発	市塚 徹	整形外科	900 円	文部科学省
27	症候性ラテゲ囊胞の増大機序における炎症性サイトカインとアグロポリンの関与	立花 修	脳神経外科学	1,900 円	文部科学省
28	マネキン型紫外線測定器による眼部紫外線被曝の測定と眼部UVインデックスの提唱	佐々木 洋	眼科学	300 円	文部科学省
29	調光型特定波長吸収遮光眼鏡の視機能改善効果と白内障患者のQOLへの影響	坂本 保夫	眼科学	800 円	文部科学省
30	脳磁図、近赤外線分光法を用いた刺激時の脳活動の計測	三輪 高喜	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	900 円	文部科学省
31	嗅神経経路の輸送を利用した他覚的嗅覚検査の開発	志賀 英明	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	900 円	文部科学省
32	接触アレルギーにおける角化細胞接着分子と皮膚ランゲルハンス細胞の経時的解析	西部 明子	皮膚科学	1,300 円	文部科学省
33	ポストポリオ症候群と耳鼻咽喉科・歯科疾患との関連性についての研究	青木 秀哲	顎口腔外科学	900 円	文部科学省
34	顎関節症の病因病態形成への細菌の関与:患者の唾液と滑膜における遺伝子解析	瀬上 夏樹	顎口腔外科学	2,000 円	文部科学省
35	軽度認知障害(MCI)の神経生理学的診断法の確立	吉村 弘	顎口腔外科学	1,800 円	文部科学省
36	性ホルモン・環境ホルモンの影響による変形性顎関節症の病態解明	金山 景錫	顎口腔外科学	1,300 円	文部科学省
37	長時間勤務と高血圧発症との関連の追跡研究	中村 幸志	健康管理センター	700 円	文部科学省
38	短縮ミトカインを用いた外科的手術が必要な早期胃癌の新しい診断法	伊藤 透	内視鏡科	500 円	文部科学省
39	辛水染色体検査の限界をMLPA法、DNAアレイ法はどこまで克服できるか。	尾崎 守	人類遺伝学研究部門	1,300 円	文部科学省
40	アルツハイマー病の新規治療戦略:神経幹細胞の経静脈的移植	王 芙蓉	ハイテクリサーチセン	1,600 円	文部科学省
41	慢性腎不全でのヘパシジン発現制御機構の解明-骨髄造血関連因子の影響-	友杉 直久	先進医療研究部門	500 円	文部科学省
42	大腸癌の細胞極性の制御異常と悪性化促進におけるRhoGDIβの機能解析	太田 隆英	分子腫瘍学研究部門	1,000 円	文部科学省
43	日本脳炎ワクチン未接種乳幼児の感染リスクの予見:基礎データ収集	村上 学	分子腫瘍学研究部門	800 円	文部科学省
44	モデル動物を用いた肥満の口腔癌への関与に関する研究	田中 卓二	病理学 I	400 円	文部科学省

90	免疫性神経疾患に関する調査研究	大原 義朗	微生物学	1,200	円	○	○	○	○	○	○	○	○	厚生労働省
91	特定疾患の疫学に関する研究	中川 秀昭	公衆衛生学	2,000	円	○	○	○	○	○	○	○	○	厚生労働省
92	進行性腎障害に関する調査研究	横山 仁	腎臓内科学	7,000	円	○	○	○	○	○	○	○	○	厚生労働省
93	新規疾患,IgG4関連多臓器リンパ増殖性疾患(IgG4+MOLPS)の確立のための研究	正木 康史	血液免疫内科学	700	円	○	○	○	○	○	○	○	○	厚生労働省
94	IgG4関連全身疾患の病態解明と疾患概念確立のための臨床研究	梅原 久範	血液免疫内科学	1,000	円	○	○	○	○	○	○	○	○	厚生労働省
95	新規疾患,IgG4関連多臓器リンパ増殖性疾患(IgG4+MOLPS)の確立のための研究	梅原 久範 (研究代表者)	血液免疫内科学	8,000	円	○	○	○	○	○	○	○	○	厚生労働省
96	免疫性神経疾患に関する調査研究	松井 真	神経内科学	1,200	円	○	○	○	○	○	○	○	○	厚生労働省
97	特発性大腿骨頭壊死症の診断・治療・予防法の開発を目的とした全国学際的研究	松本 忠美	整形外科学	1,200	円	○	○	○	○	○	○	○	○	厚生労働省
98	Congenital dyserythropoietic anemia(CDA)およびサラセミア貧血の効果的診断法確立に関する研究	高林 晴夫	FDD-MBセンサー	1,000	円	○	○	○	○	○	○	○	○	厚生労働省
99	新規疾患,IgG4関連多臓器リンパ増殖性疾患(IgG4+MOLPS)の確立のための研究	友杉 直久	先進医療研究部門	700	円	○	○	○	○	○	○	○	○	厚生労働省
100	新規疾患,IgG4関連多臓器リンパ増殖性疾患(IgG4+MOLPS)の確立のための研究	竹上 勉	分子腫瘍学研究部門	700	円	○	○	○	○	○	○	○	○	厚生労働省
101	標準的検診法と精度管理や医療経済的効果に関する研究	佐川 元保	呼吸器外科学	500	円	○	○	○	○	○	○	○	○	厚生労働省
102	認知症、運動器疾患等の老年病罹患状況及び高齢者の心身状況把握のための長期疫学的調査研究	森本 茂人	高齢医学	4,000	円	○	○	○	○	○	○	○	○	厚生労働省
103	大規模ポータル共同研究による生活習慣病発症予防データベース構築とその高度利用に関する研究	中川 秀昭	公衆衛生学	2,000	円	○	○	○	○	○	○	○	○	厚生労働省
104	2010年国民健康栄養調査対象者の追跡開始(NIPPON DATA2010)とNIPPON DATA80/90の追跡継続に関する特定検診・保険指導におけるメタボリックシンドロームの診断・管理のエビデンス創出に関する横断・縦断研究	中川 秀昭	公衆衛生学	1,200	円	○	○	○	○	○	○	○	○	厚生労働省
105	降圧治療および抗凝固療法の個人の特性に応じたテーラーメイド治療確立に関する研究	森本 茂人	高齢医学	150	円	○	○	○	○	○	○	○	○	厚生労働省
107	各種禁煙対策の経済的影響に関する研究－医療費分布と費用効果分析－	中村 幸志	健康管理センター	1,000	円	○	○	○	○	○	○	○	○	厚生労働省
108	真菌感染症の病態解明に基づく検査・治療法の確立と国内診断・治療ネットワークの構築に関する研究	望月 隆	皮膚科学	1,700	円	○	○	○	○	○	○	○	○	厚生労働省
109	我が国における日本脳炎の現状と今後の予防戦略に関する研究	竹上 勉	分子腫瘍学研究部門	1,500	円	○	○	○	○	○	○	○	○	厚生労働省
110	新型薬剤耐性菌等に関する研究	飯沼 由嗣	臨床感染症学	2,500	円	○	○	○	○	○	○	○	○	厚生労働省
111	糖尿病性腎症の病態解明と新規治療法開発のための評価法の開発	古家 大祐	糖尿病・内分泌内科学	500	円	○	○	○	○	○	○	○	○	厚生労働省
112	熱帯地域における紫外線による眼疾患の実態調査と小児期眼被曝の影響の解明に関する研究	佐々木 洋 (研究代表者)	眼科学	3,170	円	○	○	○	○	○	○	○	○	厚生労働省
113	ISO/TC249に資するための伝統医学関連の用語・疾病分類・デバイス・安全性確保などの基盤整備研究	元雄 良治 (研究代表者)	腫瘍内科学	20,000	円	○	○	○	○	○	○	○	○	厚生労働省
114	肺CT検診の有効性評価に関する研究	佐川 元保	呼吸器外科学	6,000	円	○	○	○	○	○	○	○	○	厚生労働省
115	急性脳炎・脳症のグルタミン酸受容体自己免疫病態の解明・早期診断・治療法確立に関する臨床研究	田中 恵子	神経内科学	1,000	円	○	○	○	○	○	○	○	○	厚生労働省
116	本邦における先天異常モルックによる先天異常発生要因の分析とその対応に関する研究	中川 秀昭	公衆衛生学	300	円	○	○	○	○	○	○	○	○	厚生労働省
117	医薬品開発のための副作用予測法・評価法の開発	梶波 康二	循環器内科学	500	円	○	○	○	○	○	○	○	○	厚生労働省
118	人のからだってどうやってできるの？～生命の誕生を顕微鏡でのぞいてみよう～	島村 英理子	解剖学 I	410	円	○	○	○	○	○	○	○	○	その他公的機関
119	人に病気をうつす虫(蚊やダニ)がどんな奴か見てみよう	村上 学	分子腫瘍学研究部門	410	円	○	○	○	○	○	○	○	○	その他公的機関
120	第9回日本韓国糖尿病腎症セミナー	古家 大祐	糖尿病・内分泌内科学	990	円	○	○	○	○	○	○	○	○	その他公的機関
121	刃波、準刃波帯電波の眼部はく露による影響の指針値妥当性の再評価	佐々木 洋	環境原性視覚病態研究	29,623	円	○	○	○	○	○	○	○	○	その他公的機関
122	かみすみ汚染地域における生命予後等に関する疫学研究	中川 秀昭	公衆衛生学	5,500	円	○	○	○	○	○	○	○	○	その他公的機関
123	マイクロドーズ臨床試験を活用した革新的創薬技術の開発	梶波 康二	循環器内科学	2,609	円	○	○	○	○	○	○	○	○	その他公的機関
124	小児がん生存者(Childhood Cancer Survivor)の長期心毒性に対する新しい評価法の開発	中村 常之	小児科学	500	円	○	○	○	○	○	○	○	○	その他
125	前立腺がん発症に係わる幹細胞、炎症の解明に関する基礎的・臨床病理学的研究	宮澤 克人	泌尿器科学	1,000	円	○	○	○	○	○	○	○	○	その他
126	非定型抗精神病薬Risperidoneと、Blonanserinの脳内Dパミン、セロトニン濃度におよぼす影響について	荘 将也	精神神経科学	500	円	○	○	○	○	○	○	○	○	その他
127	気道内伝搬音波の観測による気道断面積と気道壁弾性特性の測定法の開発	藤本 由貴	呼吸器内科学	1,000	円	○	○	○	○	○	○	○	○	その他
128	メタボリック症候群・脂肪肝発症機構の検討	金崎 啓造	糖尿病・内分泌内科学	2,000	円	○	○	○	○	○	○	○	○	その他
129	免疫制御受容体による自己免疫疾患制御機構の解明	中村 晃	免疫学	500	円	○	○	○	○	○	○	○	○	その他
130	lymphatic basin dessection法により術中にリンパ節転移陰性と確認されたSM胃癌に対するhybrid NOTESによる	伊藤 透	内視鏡科	1,000	円	○	○	○	○	○	○	○	○	その他
131	第9回日本韓国糖尿病腎症セミナー	古家 大祐	糖尿病・内分泌内科学	1,000	円	○	○	○	○	○	○	○	○	その他
132	ltransferase-2methoxyestradiol不全と薬飲およびホモシステニン代謝異常との相互作用検討	金崎 啓造	糖尿病・内分泌内科学	1,000	円	○	○	○	○	○	○	○	○	その他
133	稲作地帯におけるかみすみ環境汚染による健康リスクの国際比較	西条 旨子	公衆衛生学	2,860	円	○	○	○	○	○	○	○	○	その他

- (注) 1. 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請する前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2. 「研究者氏名」欄は、1つの研究については研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3. 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合には「委」に「レ」をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

診療並びに病院の管理に関する諸記録の管理方法

2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
1	Analytical and bioanalytical chemistry (2011年3月オンライン)	A GC/MS-based metabolomic approach for diagnosing citrin deficiency	久原とみ子	人類遺伝学研究部門
2	Analytical and bioanalytical chemistry (2011年2月オンライン)	Urinary 2-hydroxy-5-oxoproline, the lactam form of α -ketoglutaramate, is markedly increased in urea cycle disorders	久原とみ子	人類遺伝学研究部門
3	Analytical and bioanalytical chemistry (2011年3月オンライン)	Prenatal diagnosis of methylmalonic aciduria by measuring methylmalonic acid in dried amniotic fluid on filter paper using gas chromatography-mass spectrometry (テクニカルノート)	井上 義人	人類遺伝学研究部門
4	Ind.Health (2010)	Occupational class and incidence rates of cardiovascular events in middle aged men in Japan.	森河 裕子	公衆衛生学
5	J. Atheroscler. Thromb. (2010)	Dietary glycemic index, glycemic load and blood lipid levels in middle-aged Japanese men and women.	櫻井 勝	公衆衛生学
6	J. Atheroscler. Thromb. (2010)	Mild metabolic abnormalities, abdominal obesity and the risk of cardiovascular disease in middle-aged Japanese men.	中村 幸志	公衆衛生学
7	J. Atheroscler. Thromb. (2010)	Relationship of the polyunsaturated to saturated fatty acid ratio to cardiovascular risk factors and metabolic syndrome in Japanese: the INTERLIPID study.	中川 秀昭	公衆衛生学
8	Diabetologia (2010)	Homeostasis model assessment of insulin resistance and the risk of cardiovascular events in middle-aged non-diabetic Japanese men.	中村 幸志	公衆衛生学
9	Toxicol. Lett. (2010)	Cadmium induced renal dysfunction among residents of rice farming area downstream from a zinc-mineralized belt in Thailand.	西条 旨子	公衆衛生学
10	Bull. Environ. Contam. Toxicol. (2010)	Seventeen-year observation on urinary cadmium and β 2-microglobulin in inhabitants after cessation of cadmium-exposure in Japan.	西条 旨子	公衆衛生学
11	Prev Med (2011)	Population attributable numbers and fractions of deaths due to smoking: a pooled analysis of 180,000 Japanese.	中川 秀昭	公衆衛生学
12	J. Clin. Lipidol. (2011)	Differences in lipoprotein particle subclass distribution for Japanese Americans in Hawaii and Japanese in Japan: the INTERLIPID study.	中川 秀昭	公衆衛生学
13	J. Hypertens. (2011)	Relationship of dietary cholesterol to blood pressure: the INTERMAP study.	櫻井 勝	公衆衛生学
14	J. Sleep Res. (2011)	Association between long working hours and sleep problems in white-collar workers.	森河 裕子	公衆衛生学
15	J. Pediatr. Hematol. Oncol. (2010.6)	Dense Methylation of Types 1 and 2 Regulatory Regions of the CD10 Gene Promoter in Infant Acute Lymphoblastic Leukemia With MLL/AF4 Fusion Gene	Yutaka Saikawa	小児科学

(様式第11)

診療並びに病院の管理に関する諸記録の管理方法

2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
16	J Thorac Cardiovasc Surg (2010.8)	Bosentan induces clinical and hemodynamic improvement in candidates for right-sided heart bypass surgery	Tsuneyuki Nakamura	小児科学
17	Pediatr Blood Cancer (2010.12)	Minimal residual disease-based augmented therapy in childhood acutelymphoblastic leukemia: A report from the Japanese Childhood Cancer andLeukemia Study Group	Saikawa Y	小児科学
18	Jpn J Pediatr Hematol (2010.12)	A Morphology-Based Approach for the Treatment of Children with Acute Myeloid Leukemia: A Report from the Japanese Children's Cancer and Leukemia Study Group	Yutaka Saikawa	小児科学
19	小児保健いしかわ (2011.3)	石川県内の小学校における食物アレルギー児への対応(アンケート調査から)	中村利美	小児科学
20	Drug Metab Pharmacokinet (2011.3)	Pharmacokinetics of bosentan in routinely treated Japanese pediatric patients with pulmonary arterial hypertension	Nakamura T	小児科学
21	Journal of Neuroimmunology	Phenytoin at optimum doses ameliorates experimental autoimmune encephalomyelitis via modulation of immunoregulatory cells.	N.Hashiba	神経内科学
22	Circ. J.	Iron regulatory hormone hepcidin decreases in chronic heart failure patients with anemia	N.Tomosugi	腎臓内科
23	Rheumatol. Int.	Tocilizumab, a humanized anti-interleukin-6 receptor antibody, improved anemia in monkey arthritis by suppressing IL-6-induced hepcidin production.	N.Tomosugi	腎臓内科
24	J. Gastroenterol	Measurement of serum hepcidin-25 levels as a potential test for diagnosing hemochromatosis and related disorders	N.Tomosugi	腎臓内科
25	Biochim. Biophys. Acta	Biological effects of mutant ceruloplasmin on hepcidin-mediated internalization of ferroportin	N.Tomosugi	腎臓内科
26	Blood	Down-regulation of hepcidin resulting from long-term treatment with an anti-IL-6 receptor antibody (tocilizumab) improves anemia of inflammation in multicentric Castleman disease	N.Tomosugi	腎臓内科
27	World J. Surg.	Increased hepcidin production impairs iron metabolism after pancreatoduodenectomy	N.Tomosugi	腎臓内科
28	Ther. Apher. Dial.	Effectiveness of weekly percutaneous maxacalcitol injection therapy in patients with secondary hyperparathyroidism.	H.Yokoyama	腎臓内科
29	Ther. Apher. Dial.	Long-term natural history of acquired cystic disease of the kidney	H.Yokoyama	腎臓内科
30	Clin. Transplant.	A case of second renal transplantation with acute antibody-mediated rejection complicated with BK virus nephropathy	H.Yokoyama	腎臓内科
31	Journal of Orthopaedic Science	Prevention of steroid-induced osteonecrosis by intravenous administration of vitamin E in a rabbit model	Mikami T	整形外科

(様式第11)

診療並びに病院の管理に関する諸記録の管理方法

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
32 Journal of Arthroplasty	Wear comparison between a highly cross-linked polyethylene and conventional polyethylene against a zirconia femoral head : Minimum 5-year Follow-Up	Fukui K	整形外科
33 Journal of Spine Research	Perioperative complications of spine surgery for lumbar canal stenosis in elderly patients	Yasuda Y	整形外科
34 別冊整形外科	細粒状骨移植を併用したセメントレスポラスカップによる臼蓋側再置換術	兼氏 歩	整形外科
35 別冊整形外科	Hip-spine症候群—変形性股関節症患者に合併する腰椎分離, すべりおよび変性側弯の疫学調査—	奥田鉄人	整形外科
36 日本足の外科学会雑誌	踵骨骨折の術後成績	岡田正人	整形外科
37 Journal of Spine Research	円筒リトラクターを用いた顕微鏡視下頸椎後方除圧術の成績 術後2年以上の経過観察から	藤田拓也	整形外科
38 整形外科	Crowe分類 group I～IIIの形成不全股に対して上方設置で対処したHarris-Galante I 臼蓋カップの最低10年の成績	兼氏 歩	整形外科
39 別冊整形外科	人工靭帯を用いた円錐靭帯再建術によるNeer分類type II鎖骨遠位端骨折の治療成績	岡田正人	整形外科
40 別冊整形外科	人工靭帯を用いた烏口鎖骨靭帯再建術による肩鎖関節完全脱臼の治療成績	岡田正人	整形外科
41 別冊整形外科	ロッキングプレートを用いた上腕骨近位端骨折の治療成績	前岡勇人	整形外科
42 Journal of Spine Research	末期変形性股関節症における腰椎分離, すべりおよび変性側弯の合併頻度について	奥田鉄人	整形外科
43 骨折	踵骨関節内骨折に対する経皮的骨接合術の術後成績	岡田正人	整形外科
44 末梢神経	肘部管症候群に対する単純除圧術の術後成績	岡田正人	整形外科

(様式第11)

診療並びに病院の管理に関する諸記録の管理方法

2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
45	Am J Physiol Heart Circ Physiol. 2010 Jun;298(6):H1748-60.	Roles of hyperpolarization-activated current If in sinoatrial node pacemaking: insights from bifurcation analysis of mathematical models.	倉田康孝	生理学第二
46	Clin Exp Pharmacol Physiol. 2010 Sep;37(9):889-93.	Exercise training attenuates anaphylactic venoconstriction in rat perfused liver, but does not affect anaphylactic hypotension in conscious rats.	芝本利重	生理学第二
47	Shock. 2010 Dec;34(6):586-91.	Liver volume, as assessed by four ultrasonic crystals arranged to form a tetrahedron, decreases during anaphylactic shock in anesthetized rats.	芝本利重	生理学第二
48	Eur J Pharmacol. 2011 Jan 10;650(1):303-8.	Effects of beta-adrenergic antagonists on anaphylactic hypotension in conscious rats.	芝本利重	生理学第二
49	Anesthesiology. 2011 Mar;114(3):614-23.	Pulmonary vasoconstrictive and bronchoconstrictive responses to anaphylaxis are weakened via beta2-adrenoceptor activation by endogenous epinephrine in anesthetized rats.	芝本利重	生理学第二
50	J Physiol Sci. 2011 Mar;61(2):161-6.	Portacaval shunting attenuates portal hypertension and systemic hypotension in rat anaphylactic shock.	芝本利重	生理学第二
51	Clin Exp Med.	An alpha-glucosidase inhibitor, acarbose treatment decreases serum levels of glyceraldehyde-derived advanced glycation end products (AGEs) in patients with type 2 diabetes.	山岸 昌一 (竹内 正義)	久留米大学医学部 先端医療研究領域
52	J Gastroenterol.	The formation of intracellular glyceraldehyde-derived advanced glycation end-products and cytotoxicity.	竹内 正義	先端医療研究領域
53	J Gastroenterol.	Atorvastatin decreases serum levels of advanced glycation endproducts (AGEs) in nonalcoholic steatohepatitis (NASH) patients with dyslipidemia: clinical usefulness of AGEs as a biomarker for the attenuation of NASH.	兵庫 秀幸 (竹内 正義)	広島大学医学部 先端医療研究領域
54	Lab Invest.	Immunological detection of fructose-derived advanced glycation end-products.	竹内 正義	先端医療研究領域
55	Microvasc Res.	Pigment epithelium-derived factor inhibits advanced glycation end product-elicited mesangial cell damage by blocking NF-kappaB activation.	山岸 昌一 (竹内 正義)	久留米大学医学部 先端医療研究領域
56	Biochem Biophys Res Commun.	Nifedipine, a calcium channel blocker, inhibits inflammatory and fibrogenic gene expressions in advanced glycation end product (AGE)-exposed fibroblasts via mineralocorticoid receptor antagonistic activity.	山岸 昌一 (竹内 正義)	久留米大学医学部 先端医療研究領域
57	Protein Pept Lett.	Pyridoxamine, an inhibitor of advanced glycation end product (AGE) formation ameliorates insulin resistance in obese, type 2 diabetic mice.	山岸 昌一 (竹内 正義)	久留米大学医学部 先端医療研究領域

(様式第11)

診療並びに病院の管理に関する諸記録の管理方法

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
58 Int J Cardiol.	Involvement of aldosterone-mineralocorticoid receptor system in advanced glycation end product (AGE)-elicited plasminogen activator inhibitor-1 (PAI-1) expression in diabetes.	山岸 昌一 (竹内 正義)	久留米大学医学部 先端医療研究領域
59 Curr Drug Targets.	Involvement of the toxic AGEs (TAGE)-RAGE system in the pathogenesis of diabetic vascular complications: a novel therapeutic strategy.	竹内 正義	先端医療研究領域
60 Biochem Biophys Res Commun.	Nifedipine inhibits advanced glycation end products (AGEs) and their receptor (RAGE) interaction-mediated proximal tubular cell injury via peroxisome proliferator-activated receptor-gamma activation.	山岸 昌一 (竹内 正義)	久留米大学医学部 先端医療研究領域
61 Cardiovasc Ther.	Serum Levels of Advanced Glycation End Products (AGEs) are Independent Correlates of Insulin Resistance in Nondiabetic Subjects.	山岸 昌一 (竹内 正義)	久留米大学医学部 先端医療研究領域
62 J Oncol.	Cancer malignancy is enhanced by glyceraldehyde-derived advanced glycation end-products.	竹内 正義	先端医療研究領域
63 J Ophthalmol.	Involvement of TAGE-RAGE System in the Pathogenesis of Diabetic Retinopathy.	竹内 正義	先端医療研究領域
64 Oxid Med Cell Longev.	Insulin resistance is an independent correlate of high serum levels of advanced glycation end products (AGEs) and low testosterone in non-diabetic men.	山岸 昌一 (竹内 正義)	久留米大学医学部 先端医療研究領域
65 Horm Metab Res.	Combination therapy with nateglinide and telmisartan ameliorates insulin resistance in Zucker Fatty rats by suppressing advanced glycation end product receptor axis.	山岸 昌一 (竹内 正義)	久留米大学医学部 先端医療研究領域
66 World J Gastroenterol.	MK615 decreases RAGE expression and inhibits TAGE-induced proliferation in hepatocellular carcinoma cells.	澤田 登起彦 (竹内 正義)	獨協医科大学 先端医療研究領域
67 Int J Cardiol.	Co-treatment with azelidipine and olmesartan inhibits advanced glycation end products (AGEs) elicited down-regulation of adiponectin mRNA levels in cultured adipocytes partly via its anti-oxidative property.	山岸 昌一 (竹内 正義)	久留米大学医学部 先端医療研究領域
68 Pharmacol Res.	Pigment epithelium-derived factor (PEDF) inhibits proximal tubular cell injury in early diabetic nephropathy by suppressing advanced glycation end products (AGEs)-receptor (RAGE) axis.	山岸 昌一 (竹内 正義)	久留米大学医学部 先端医療研究領域
69 Oxid Med Cell Longev.	Atorvastatin reduces proteinuria in non-diabetic chronic kidney disease patients partly via lowering serum levels of advanced glycation end products (AGEs).	山岸 昌一 (竹内 正義)	久留米大学医学部 先端医療研究領域
70 Hum Reprod.	Advanced glycation end-products accumulation compromises embryonic development and achievement of pregnancy by assisted reproductive technology.	神野 正雄 (竹内 正義)	ウイメンズクリニック 神野 先端医療研究領域

(様式第11)

診療並びに病院の管理に関する諸記録の管理方法

2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
71	アールティ VOL47 20-23	3T MRIにおける3次元高速スピノエコー法(SPACE)の活用について	平田恵哉	中央放射線部
72	日内誌	全身性IgG4関連疾患における下垂体炎の臨床病理学的検討-IgG4関連下垂体炎として-	立花 修	脳神経外科学
73	Cell Transplantation(2010.12)	Renal protective effects of erythropoietin on ischemic reperfusion injury	Manabu Moriyama	泌尿器科
74	金沢医科大学雑誌(2010.8)	金沢医科大学における死体腎摘出と献腎移植成績について	田中達朗	泌尿器科
75	泌尿器科紀要(2010.8)	虚血腎機能障害に対するエリスロポエチンの腎保護作用についての検討	森山 学	泌尿器科
76	J Neurovirol(2010.6)	Cytokine/chemokine profile in J774 macrophage cells persistently infected with DA strain of Theiler's Murine Encephalomyelitis Virus (TMEV)	T. Himeda	微生物学部門
77	Microbiol Immun(2010.7)	Opposite effects of two nonstructural proteins of Theiler's murine encephalomyelitis regulates apoptotic cell death in BHK-21 cells	T. Okuwa	微生物学部門
78	Virology(2010.8)	Activation of the PI3K-Akt pathway by human T cell leukemia virus type 1(HTLV-1) oncoprotein Tax increases Bcl3 expression, which is associated with enhanced growth of HTLV-1-infected T-cells	K. Saito	微生物学部門
79	Virus Res(2011.2)	The anti-apoptotic protein L* of Theiler's murine encephalomyelitis virus (TMEV) contains a mitochondrial targeting signal	T. Himeda	微生物学部門
80	臨床病理(2010年4月)	軟部腫瘍の分類と診断へのアプローチ	野島 孝之	病院病理部
81	日整会誌(2010年12月)	生検標本による軟部腫瘍の組織型・悪性度判定における病理診断の問題点	野島 孝之	病院病理部
82	Anticancer Research(2010年9月)	Desmoplastic small round cell tumour successfully treated with caffeine-assisted chemotherapy. A case report and review of the literature	野島 孝之	臨床病理学
83	Surgery Today 2010年9月	Modification of the surgical procedure to enable the complete resection of lung cancer with carcinomatous pleuritis.	湊 宏	病理診断科

(様式第11)

診療並びに病院の管理に関する諸記録の管理方法

2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
84	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery 2010年8月	Advanced lung cancer invading the left atrium, treated with pneumonectomy combined with left atrium resection under cardiopulmonary bypass	湊 宏	病理診断科
85	Pathology Reserch and Practice 2010年12月	Solitary intrapulmonary cystic lymphangioma in an infant: A case report with literature review	湊 宏	病理診断科
86	日本臨床細胞学会雑誌 2011年3月	子宮頸部明細胞腺癌と扁平上皮内癌が衝突癌状に共存した症例	木下英理子	病理診断科
87	臨床病理 2011年3月	病理検査における医療安全管理「検体採取から病理検査報告書の伝達まで」	湊 宏	病理診断科
88	癌と化学療法 2010年7月	S-1単剤によるダウンステージ後、治癒切除し得た多発性肝転移を伴う非機能性膵神経内分泌癌の1例	湊 宏	病理診断科
89	臨床血液 2010年7月	頸髄神経根原発のneurolymphomatosis	黒瀬望	病理診断科
90	J Physiol Sci	Evaluations of dementia by EEG frequency analysis and psychological examination.	Yoshimura H	顎口腔外科
91	J Oral Maxillofac Surg	Increased levels of soluble cytokin receptors in the synovial fluid of temporomandibular joint disorders in relation to joint effusion on magnetic resonance images.	Kaneyama K	顎口腔外科
92	Diabetes Care 33: 1805-1810 / 2010年08月	Association between urinary type IV collagen level and deterioration of renal function in type 2 diabetic patients without overt proteinuria	Koya, D.	糖尿病・内分泌内科学
93	Prog. Med. 30: 1165-1172 / 2010年04月	ピタバスタチン長期投与におけるレムナント様リポ蛋白コレステロール(RLP-C)に及ぼす影響 — nonfasting(非空腹時)採血サンプルにおける RLP-C評価を含めて—	古家大祐	糖尿病・内分泌内科学
94	ホルモンと臨 58(春季増刊): 35-40 / 2010年04月	TSH産生下垂体腺腫＋原発性副甲状腺機能亢進症合併例におけるMEN1およびCDKN1B遺伝子解析	中川 淳	糖尿病・内分泌内科学
95	Diabetes 60: 634-643 / 2011年02月	Resveratrol improves oxidative stress and protects against diabetic nephropathy through normalization of Mn-SOD dysfunction in AMPK/SIRT1-independent pathway	Kitada, M.	糖尿病・内分泌内科学
96	Clin. Exp. Nephrol. 15: 58-63 / 2011年02月	Elevated serum levels of interleukin-18 in patients with overt diabetic nephropathy: effects of miglitol	Koya, D.	糖尿病・内分泌内科学

(様式第11)

診療並びに病院の管理に関する諸記録の管理方法

2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
97	Evid. Based Coplement. Alterat. Med. 2011: 735297 / 2011年(Epub 2010年10月)	Low-frequency electroacupuncture improves insulin sensitivity in obese diabetic mice through activation of SIRT1/PGC-1 α in skeletal muscle	Koya, D.	糖尿病・内分泌内科学
98	Am J Ophthalmol	A Simplified Quantitative Method for Assessing Keratoconjunctivitis sicca From the Sjogren's Syndrome International Registry.149:405-415.2010	JP.Ehitcher, CH.Shiboski, SC.Shiboski, AM.Heidenreich, K.Kitagawa, S.Zhang, S.Hamann, G.Larkin, NA.Mcnamara, JS.Greenspan TE.Daniels	眼科
99	Br J Ophthalmol	Exfoliation syndrome in the Reykjavik eye Study:risk factrs for baseline prevalence and 5-Year Incidence.94(7):831-835,2010	A.Arnarsson, F.Jonasson, KF.Damji, MS.Gottfredsdottir, T.Sverrisson, H.Sasaki	眼科
100	IEEE Transacions on Biomedical Engineering	Acute Dosimetry and Estimation of Threshold-Inducing Behavioral signs of Thermal Stress in Rabbits at 2.45-GHz Microwave Exposure.57(5):1234-1241,2010	A.Arimoto, M.Kojima, H.Kawai, Y.Yamashiro, S.Watanabe, H.Sasaki	眼科
101	J Cataract Refract Surg	Higher-order ocular aberrations caused by crystalline lens waterclefts.36:799-805,2010	J.Qu, H.Sasaki, Y.Sakamoto, Y.Kawakmi, K.Sasaki, F.Jonasson	眼科
102	日本白内障学会誌	遮光と視機能－透明遮光眼鏡への挑戦－.22:24-28,2010	坂本保夫	眼科
103	あたらしい眼科 増刊号	細菌性角膜炎の治療のポイントは？.26:32-34,2010	北川和子	眼科
104	眼科	白内障の疫学と予防.52(5):655-668,2010	佐々木洋	眼科
105	日本白内障学会誌	基礎研究を活用した白内障診療.22:19-21,2010	赤木好男, 佐々木洋	眼科
106	Genetic Testing and Molecular Biomarkers	Identification of the COL2A1 Mutation in Patients with Type I Stickler syndrome Using RNA form Freshly Isolater Peripheral white Blood cells.15:231-237,2011	H.Yaguchi, T.Ikeda, H.Osada, Y.Yoshitake, H.Sasaki, H.Yonekura	眼科
107	Molecular Vision	Ultraviolet B-induced expression of amphiregulin and growth differentiation factor 15 in human lens epithelial cells.17:159-169,2011	H.Osada, Y.yoshitake, T.Ikeda, Y.Ishigaki, T.Takata, N.Yomosugi, H.Sasaki, H.Yonekura	眼科

(様式第11)

診療並びに病院の管理に関する諸記録の管理方法

2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
108	Ophthalmic Res	Cyclin-Dependent Kinase Inhibitor p16 and p21 expression, and Cell Cycle Change in Human Lens Epithelial Cell Line SRA 01/04 following Contact Inhibition in Normal Culture.46:38-43,2011	Y.Yamashiro, H.Sasaki, N.Ibaraki, K.Nagai, Y.Kawakami, H.Yaguchi, N.Fujita, H.Osada, K.Sasaki	眼科
109	Ophthalmic Res	Vitreous and aqueous penetration of orally and topically administered moxifloxacin.46:113-117,2011	M.Fukuda, N.Shibata, H.Osada, Y.Yamashiro, H.Sasaki, ,	眼科
110	あたらしい眼科	293. 核白内障と水晶体屈折力.28:77-78,2011	初坂奈津子, 佐々木洋	眼科
111	J. Surg. Oncol	Histopathological and immunohistochemical evaluations of breast cancer treated with radiofrequency ablation	(A.Motoyoshi), M.Noguchi, M.Earashi, Y.Zen, H.Fujii	一般・消化器外科学ほか
112	日本外科系連合学会誌	進行胆嚢癌に対する至適リンパ節郭清—著者らの経験から—	上田順彦, 小坂健夫	一般・消化器外科学
113	北陸外科学会誌	WHO/QoL 26 を用いた,胃切除術後患者の健康関連 Quality of Life の測定の試み	木南伸一, 尾山勝信, 伏田幸夫, 藤村 隆, 太田哲生, 細川謙蔵, 横井美樹, 舟木 洋, 表和彦, 上田順彦, 中野泰治, 小坂健	一般・消化器外科学ほか
114	Int. Heart J.	The effects of a PPAR α agonist on myocardial damage in obese diabetic mice with heart failure. 2010.05.	R.Chen, F.Liang, S.Morimoto,	高齢医学
115	J. Physiol. Sci.	Evaluations of dementia by EEG frequency analysis and psychological examination. 2010.09.	H.Yoshimura, S.Morimoto	高齢医学
116	J. Kanazawa. Med. Univ.	Increased level of LDL cholesterol in elderly patients with acute ischemic stroke associated with severe hypertension, 2010.12.	M.Atsumi,	高齢医学
117	Evid Based Complement Alternat Med,	Mao-to prolongs the survival of and reduces TNF- α expression in mice with viral myocarditis, 2010.	Z.Shijie, T.Nakahashi, K.Iwai, S.Morimoto,	高齢医学
118	Hypertension Research	Association between human metapneumovirus seroprevalence and hypertension in elderly subjects in a long-term care facility. 2011.01.	L.Zeng, K.Ishigami, M.Atsumi	高齢医学
119	J.Bone Miner Metab	Design of a pragmatic approach to evaluate the effectiveness of concurrent treatment for the prevention of osteoporotic fractures. 2011.03	M.Shiraki, S.Morimoto,	高齢医学
120	Circ Cardiovasc Imaging (2010.6)	Iodine-123 metaiodobenzylguanidine imaging and carbon-11 hydroxyephedrine positron emission tomography compared in patients with left ventricular dysfunction	青木洋文	循環器内科

(様式第11)

診療並びに病院の管理に関する諸記録の管理方法

2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
121	Circulation Journal (2010.12)	Abnormal Myocardial Energy-Production State in Mitochondrial Cardiomyopathy and Acute Response to L-Arginine Infusion	河合康幸	循環器内科
122	金医大誌	非定型抗精神病薬risperidoneとblonanserinの急性投与による家兎海馬での興奮性シナプス伝達およびdopamine,serotonin濃度に及ぼす影響	荘 将也	精神神経科学
123	金医大誌	強迫性障害患者におけるfunctional MRIを用いた前頭葉機能を反映する認知課題施行時の脳活動に関する研究	小泉葉月	精神神経科学
124	Psychiatry Clin. Neurosci	Correlations between Z-scores of VSRAD and regional cerebral blood flow of SPECT in patients with Alzheimer's disease and mild cognitive impairment	S. Shimizu	精神神経科学

計 124件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

診療並びに病院の管理に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 川上 重彦
管理担当者氏名	病院事務部事務長 古居 滋

	保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌, 各科診療日誌, 処方せん, 手術記録, 看護記録, 検査所見記録, エックス線写真, 紹介状, 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院治療計画書	病院管理課 薬剤部 看護部 中央放射線部 医療情報部 医事課	【診療録】 患者登録は初回来院時の登録番号(7桁)を基準として、1患者1番号で生涯有効性を採用し、1患者の入院と外来の全病歴を電子媒体により保存・管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者を明らかにする帳簿	病院職員課
	高度医療の提供の実績	医事課
	高度医療技術の開発及び評価の実績	医事課
	高度医療の研修の実績	病院職員課
	閲覧実績	病院管理課
	紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携事務課
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院管理課、薬剤部
	規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全部(医療安全管理室)
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全部(医療安全管理室)
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全部(医療安全管理室)
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全部(医療安全管理室)
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全部(医療安全管理室)
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全部(感染制御室)
医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全部(医療安全管理室)	
当該病院内に患者から安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全部(医療安全管理室)	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の1第1項各号及び第9条の2第1項第1号に掲げる体制の確保状況		
	院内感染のための指針の策定状況	医療安全部(感染制御室)	
	院内感染のための委員会の開催状況	医療安全部(感染制御室)	
	従事者に対する院内感染のための研修の実施状況	医療安全部(感染制御室)	
	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全部(感染制御室)	
	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	
	従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	ME部	
	従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME部	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME部		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療の提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院事務部事務長 古居 滋(管理・運営)、医療情報部長 堀 有行(診療記録)
閲覧担当者氏名	病院管理課長 浜本 啓行(管理・運営)、情報管理課長 大家 英治(診療記録)
閲覧の求めに応じる場所	カルテ閲覧室・病院管理課事務室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

○紹介患者に対する医療の提供の実績

紹介率	55.1%	算定期間	平成22年4月1日～平成23年3月31日
算出根拠	A : 紹介患者の数	8,572人	
	B : 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	8,588人	
	C : 救急用自動車によって搬入された患者の数	785人	
	D : 初診の患者の数	23,983人	

(注) 1 「紹介率」欄はA、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dはそれぞれの延べ数を記入すること。

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>・指針の主な内容</p> <p>医療事故防止に関する安全管理体制の指針(以下「指針」という。)は、医療事故防止に関する安全管理体制、安全管理体制に関する関係規程及び医療事故防止に関する共通及び部門マニュアルの3部構成をとっている。</p> <p>指針は、医療事故防止に関する病院の方針、用語の定義、医療事故の防止体制、医療事故発生時の対応、インシデントレポートに関する基本事項、医療事故防止規程・マニュアルの整備、医療事故防止に関する職員の研修、患者暴力行為への対応、安全管理体制に関する組織図等、医療事故報告書様式など医療事故防止に係る基本的事項を収載している。H22年度改訂では、医療安全部構成図、フロー図、区分表等を組み込み読みやすく編集。医療安全部構成図、医療安全部兼任リスクマネージャー、合併症の報告、医療紛争・医療訴訟の対応、インフォームドコンセントの説明事項を追加した。また、院内暴力対応指針を別冊として整備した。(H22.10.1制定)</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 24 回
<p>・活動の主な内容</p> <p>* 医療安全対策小委員会:月1回開催(第3水曜日)</p> <p>医療安全対策小委員会は医療安全管理室副室長を委員長に配し、医療安全管理者、内科系・外科系・小児科医師、看護師、薬剤師、医療技術職員及び事務職員の18名で構成され、医療安全管理者が決めたテーマや各部門に共通するようなインシデント事例を抽出して事例検討を行う。小委員会では、インシデントに至る状況、要因、影響等について、徹底的に分析・検討し、改善策や再発防止対策を洗い出す。また、その結果を医療安全対策委員会に小委員会からの事例報告として報告・提案・注意喚起するとともに、システムの改善で防止できるものであれば担当部署に委員会として改善を要望する。</p> <p>* 医療安全対策委員会:月1回開催(第4火曜日)</p> <p>医療安全対策委員会は各部門・各部署の部門リスクマネージャー(病棟医長、部長、看護師長、技師長、課長相当職)71名で構成されている。インシデント情報の収集結果、状況別・原因別集計表及び医療安全対策小委員会から報告されるインシデント事例の分析・検討結果、改善策、医療問題検討委員会で検討された医療事故についてをそれぞれの部門・部署に周知すると共に情報を共有し、事故の防止に努める。さらに、診療科、病棟、薬剤部、ME部他関連する部署のスタッフが、それぞれの部署でのインシデント事例について、それぞれの職種立場を超えて分析・検討するインシデント分析検討会を定期的に行っており、その内容について毎回2グループづつ代表者が報告する。他に指針・マニュアルの改正、医療安全院内ラウンド、全体職員・リスクマネージャー研修会、医療安全アンケート、その他医療安全に係る事項についての審議・結果報告を行う。</p> <p>委員会の議事録及び資料は、各委員及び全リスクマネージャーに配付し、所属職員全員に周知するよう回覧を行い、読んだ者はサインするようにしている。他に、電子カルテ上とイントラネット「病院職員のページ」にも委員会の議事録を掲載している。</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 21 回
<p>・研修の主な内容</p> <p>特定機能病院としての医療安全管理体制を確保するための職員研修会(第1回目)</p> <p>開催日 平成22年7月2日(金)</p> <p>テーマ 院内医療メデイエーション -日常診療から医療紛争まで-</p> <p>講師 安藤 哲朗(安城更生病院 医療安全部長・神経内科部長)</p> <p>特定機能病院としての医療安全管理体制を確保するための職員研修会(第2回目)</p> <p>開催日 平成22年9月17日(金)</p> <p>テーマ 気付いていますか?あなたの患者のDVTに</p> <p>講師 四方 裕夫(本学病院 胸部心臓血管外科教授)</p> <p>特定機能病院としての医療安全管理体制を確保するための職員研修会(第3回目)</p> <p>開催日 平成22年11月29日(月)</p> <p>テーマ 院内暴力対策は危機管理</p> <p>講師 西田 健治(医療安全部保安担当責任者)</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・医療機関内における事故報告等の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <p>院内で起こった医療事故は、速やかに病院長まで報告されると共に医療安全管理者が現場へ出向き、情報収集を行う。院内で発生した事故事例については、月1回開催される医療問題検討委員会で全事例の協議・対応を図ると共に、医療事故調査委員会の開催要否について審議を行っている。医療事故調査委員会では、関係者から詳細な事故状況の報告を求め、それに関する質問と討論から背景、要因、問題点を洗い出して分析・検討をしている。重大事例や情報を共有して再発防止に役立つ事例は、医療安全対策委員会で報告を行って職員に周知する他、外部機関である日本医療機能評価機構へ報告を行う。</p>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有(2名) <input type="checkbox"/> 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有(3名) <input type="checkbox"/> 無

⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>・所属職員：専任(5)名 兼任(8)名</p> <p>・活動の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全対策委員会、医療安全対策小委員会及び事故調査委員会、医療問題検討委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全対策委員会の庶務に関する事。 ・医療事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行う事。 ・患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行う事。 ・事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行う事。 ・医療安全に係る連絡調整に関する事。 ・診療情報提供に関する事。 ・医療安全相談に関する事。 ・その他医療安全対策の推進に関する事。(病院全職員を対象とするもの、特定の部署の職員を対象とするもの等の職員研修の計画・立案・実施等) 	
⑧ 当該病院内に患者から安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無

院内感染のための体制の確保に係る措置

① 院内感染のための指針の策定状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>・指針の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.院内感染に対策に関する基本的な考え方 2.院内感染対策のための委員会およびその他組織に関する基本事項 3.院内感染対策のための職員等に対する研修に関する基本方針 4.感染症の発生状況の報告に関する基本事項 5.院内感染発生時の対応に関する基本事項 6.患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7.その他院内感染対策推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・活動の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.感染管理組織とシステムの構築 2.院内感染サーベイランス 3.感染に対するコンサルテーション 4.感染管理教育 5.職業感染防止 6.感染防止技術:マニュアル作成・改訂 7.ファンリティ・マネジメント <p>・委員会の開催</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)月1回年間12回の定例開催 2)委員数27名 3)年度平均出席率 75.5% 	
③ 従事者に対する院内感染のための研修の実施状況	年 9 回
<p>・研修の主な内容</p> <p>【全職員対象】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)「感染対策の基本と実践」開催日時:2010年6月15日 講師:飯沼 由嗣 臨床感染症科学 教授 2)「創傷治癒の理論に基づいた予防策」開催日時:2011年3月4日 講師:松村 一 東京医科大学 形成外科 教授 <p>【新採用者対象】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)全員「新入職員オリエンテーション」開催日時:2010年4月2日 2)コメディカル対象:開催日時:2010年4月2日 3)研修医対象:開催日時:2010年4月9日 4)看護師対象:開催日時:2010年4月14日 <p>【その他】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)看護師2年目・准看護師対象:開催日時:2010年6月4・25日 2)リンクナース対象:開催日時:2010年8月27日・9月24日・10月22日 3)帰局職員及び中途採用者対象:開催日時:2010年11月5日 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・病院における発生状況の報告等の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症防止対策の強化 <ol style="list-style-type: none"> 1)感染対策小委員会を廃止し、ICT(感染対策チーム)を設立し、感染対策活動の強化を図った。 2)感染管理支援システムを導入し、感染症の発生状況や抗菌薬の使用状況がほぼリアルタイムに把握可能となった。 3)感染症科の設立により、感染症診療へのコンサルテーション業務の強化を図った。 2. 感染防止対策のシステムの変更 <ol style="list-style-type: none"> 1)針刺し対策を感染制御室で一括管理し、より適切な対応ができるようにした。 2)感染対策マニュアルの見直しおよび改訂を行った(結核曝露後対策、感染防止技術マニュアル等)。 	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
② 従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・活動の主な内容</p> <p>機器研修は平成19年3月30日医政局通知(有効性、安全性、使用方法、保守、不具合時の対応、法令上の遵守事項。2回/年)に従い行っている。主要ME機器については、人工呼吸器等を中心に医療安全部、看護部、ME部(当院の機器管理部門)等が協力、連携し機器研修を実施している。(平成22年4月より平成23年9月までに研修等の実施回数 20回、参加延べ人数約400名)</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	<p>・手順書の作成 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・保守点検の主な内容 人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、保育器、高エネルギー放射線装置、診療用放射線照射装置及びその他主要ME機器の年間点検計画を策定し機器マニュアル、メーカー指示(点検内容、頻度)に従って各機器のチェックシートを作製し臨床工学技士が通常点検を実施している。また人工呼吸器は通常点検に加えて1000～5000時間毎にメーカー定期点検を実施している</p>
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	<p>・医療機器に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容 機器メーカー、技士会、機器等納入業者及び医薬品医療機器総合機構(PMDA)のホームページ、またはPMDAからのメール配信サービスより各種関連情報を入手し関連部門へメール、通達回覧している。また、医療安全委員会(各部門リスクマネージャ全員出席)での報告、注意喚起を実施し必要時には担当ME技士及びメーカーSEにより直接、当該部門で改善指導を実施している。</p>

医薬品の使用に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
② 従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 ・活動の主な内容 平成23年4月6日 新採研修医 「薬剤の処方と麻薬の取り扱い」 平成23年5月27日 新採看護師 「医薬品を安全に使用するために」、「ハイリスク薬を中心とした注射薬の取り扱いについて」 平成23年9月7日 研修医・新採看護師 「医療用麻薬適正使用ガイダンス」	年 3 回
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 ・手順書の作成 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・業務の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品の購入・採用に関する事項 ・医薬品の管理に関する事項 ・患者の持参薬歴の収集方法、処方箋の記載方法 ・患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 ・医薬品の安全使用に係る情報の取り扱いに関する事項 ・他施設(病院、薬局等)との連携に関する事項 	年 1 回
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 ・医薬品に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・その他の改善のための方策の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・院内インシデントに基づいた業務検討と改善 ・薬剤部門会議での改善及び効果の検討 ・安全対策委員会での報告 	